

無盡燈

M U J I N T O

No.150

特集

『無盡燈』創刊150号記念 特別対談
大谷大学の「Real」
インタビュー「表紙絵への想い」 畠中光亨先生

鷺田清一先生
×
一楽 真学長



大谷大学同窓会

会長就任のご挨拶と 150号刊行に寄せて

この度、佐賀枝夏文前会長の後任として就任することになりました藤嶽明信です。まずもって、これまで同窓会長としてご尽力いただきました先生方に篤く御礼申しあげます。佐々木教悟先生、藤島建樹先生、石橋義秀先生、佐賀枝夏文先生など歴代の会長のお姿を思い浮かべると、浅学菲才の私がこのような大任に相応しいとは思えませんが、大谷大学で仏教・真宗を学ぶ機会を頂いた同窓生のひとりとして、お引き受けすることといたしました。微力ですが尽力したいと思います。皆様方の御支援と御協力を是非ともお願いいたします。

さて、『無盡燈』はこの度150号を迎えました。振り返れば、私が大谷大学の同窓会に関わるようになったのは、『無盡燈』の編集委員になったことによります。

その当時『無盡燈』は縦書き(縦組み)でした。

同窓会役員や編集委員の方々との話し合いを重ね、横書き(横組み)へと変更されたことも、印象深く思い出されます。

『無盡燈』には、時代のなかを歩み続けてきた同窓会そして母校の足跡の一端が窺えるように思います。

大谷大学同窓会と母校の発展を念願して、会員の皆様と共に、歩んでまいりたいと存じます。

ふじたけ みょうしん
大谷大学同窓会長 **藤嶽 明信**
(大谷大学名誉教授)





大谷大学同窓会のあゆみ

大谷大学は、東京巢鴨(現:豊島区)に1901年10月13日、「真宗大学」として移転・開校されました。そして、1913年、現在の地に「真宗大谷大学」として移転開設され、本館(現:尋源館)などの建物が竣工しました。さらに1922年に大学令による「大谷大学」として認可、1924年に文学部設置という歴史を歩んできました。

その中で、同窓会が全国的に組織されてきた背景について、『大谷大学新報』(1923年)には、

大谷大学学友会の名のもとに、大学において、全国各地の同窓生代表の総会を毎年開催。
当時の学友会活動の中心的行事は全国各地で開催された「夏期大学講座」であった。

とあります。この「夏期大学講座」を機縁にして各地区に支部組織が次々と誕生し、やがて同窓会の形態をとっていくようになりました。

さらに戦後の学制改革に伴い、1949年に新制の大谷大学となり、翌年には大谷大学短期大学部が開設され、1953年、大学院を設置するにいたりました。

そのころ、学外にあった同窓会本部事務局を大学内に移転し、大学事務の学生課(現:学生支援課)職員が同窓会事

大谷大学の沿革

1665 (寛文 5)年	東本願寺内に学寮創設
1755 (宝暦 5)年	学寮を高倉通魚棚に移し高倉学寮と呼称
1868 (慶応 4)年	護法場を学寮内井波屋敷に設置
1873 (明治 6)年	高倉学寮と護法場を貫練場と改称
1879 (明治12)年	貫練場を貫練教校と改称
1882 (明治15)年	貫練教校を改め真宗大学寮と称する
1896 (明治29)年	大学寮の機構を解き、真宗大学を設置
1901 (明治34)年	10月13日真宗大学を、東京巢鴨に移転・開校
1911 (明治44)年	真宗大学と高倉大学寮を併合して 真宗大谷大学と改称、京都に置くことが決定
1913 (大正 2)年	真宗大谷大学、上賀茂小山の現在地に移転開設 赤レンガ造本館・講堂、図書館、学寮(学生寮)落成式
1922 (大正11)年	大谷大学、大学令による設立を認可

務を兼務するという状況でしたが、その後、理事委員を委嘱し、体制を徐々に整えていきました。

特に、1961年の宗祖親鸞聖人700回御遠忌記念事業としての図書館・研究室棟建設に際して、同窓会は大学と一体となり「大谷大学図書館建設促進協議会」を組織しました。その際、本部事務室を設置するとともに、専従職員2名を配置し、より充実した組織を整えることになりました。

以後、同窓会はつねに大谷大学の発展のため、数々の学内環境整備に寄与しており、近年では新教室棟「慶聞館」の建築において、2015年度より2019年度まで「キャンパス総合整備・新教室棟建築資金募金」として、全国の同窓生に呼び掛け、募金活動を行ってきました。

今後も大谷大学の教育・研究環境の整備に、同窓会としてもできる限りの協力・支援を行ってまいります。

同窓会報『無盡燈』について

大谷大学同窓会の会報『無盡燈』は、この度、150号を迎えました。

その原点は、1951年11月に大学広報誌ならびに同窓会誌的性格を兼ね備えた『大谷大学時報』に遡ります。その『大谷大学時報』が、第34号(1962年10月)を発行する際に誌名を『無盡燈』と改め、現在にいたっており、大学と同窓生との懸け橋としての役割を果たしてきました。

誌名の由来は、『維摩経』の「無盡燈^{ゆいまきよう}というのは、譬^{たと}えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。冥や

みがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩方がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。

今後とも同窓会報『無盡燈』が、同窓会員に「^{とも}盡きることの無い燈」となっていくものと信じています。

〔表紙題字…親鸞聖人の真蹟の『坂東本・教行信証』から集字したものです。〕



真宗大学(東京巢鴨)



開校地近くに立つ
記念碑(東京都豊島区)



1950年頃の大学正門
(門柱は現北門として使用)



「知進守退」の碑
(現 正門横)

『無盡燈』創刊150号記念 特別対談

大谷大学の「Real」



大谷大学の「文」^{あや}

この度、大谷大学の同窓会誌『無盡燈』が150号の節目となることから、特別企画として鷺田清一先生と一楽真学長の特別対談を行うこととなりました。

大谷大学について、様々な視座からお話をいただければと思います。

鷺田 大谷大学は私にとって身近な大学で、教員として勤める前から、哲学の先輩や後輩を訪ねたり、近くの洋書屋さんに行った際によく立ち寄っていました。著名な先生方に囲碁で遊んでもらえるほど(笑)。

私自身の教員生活は、巨大な大学が殆どでした。その点、大谷大学の哲学科での授業は少人数制で一人一人の顔がわかる状況で、すごく「実」のある授業ができたように思います。

また、大谷大学は、キャンパスはコンパクトですが文系の大学として歴史は長く、宗教はもちろん、社会や文化の在り方、人類の歴史と、様々な分野に精通する間口の広い学校だと感じています。

文系といえば、近年、「文理融合」とかよく聞きますけれど、何かと世間では文と理とを対立させるのが気がかりです。どちらも「文」^{あや}とか「理」^{ことわり}という意味で、全く対義語ではない。「文」の対義語はむしろ「武」です。

一楽 最近、文系にも理系の発想をもっと持てという文脈で「文理融合」が言われますよね。私は、逆にテクノロジーをやっておられる理系の方が文系の考え、特に哲学をもって「何のために」これを作るのかを考えて欲しいですね。

鷺田 もう一つ文系学部について考える際に大事なと思うのは、大谷大学のキャッチフレーズである「Be Real」です。しかもサブフレーズが「寄りそう知性」という、この発想が面白い! 「Real」は〈ほんもの〉〈現実的〉と同時に〈根源的な真〉ということですよ。本当の理^{ことわり}というか。文系学部というと、「実」「Real」ではなくて、「虚」で役に立たない、その点、理系は社会ですぐに役に立つ実学だと言います。私は、これは文系学部へのひどい誤解だと思っています。実学の「実」というのは決して役に立つという意味ではないのです。「実」というのは、社会の課題・問題と取り組むということではないのです。

「耐える」力

鷺田 私が文系学部の定義で一番好きなのは、評論家の大宅映子^{おおやえいこ}さんの「死ぬとわかっているのに人はどうして生きていけるのか。その理由を考えると文学部ということです」という言葉です。死ぬとわかっているのに頑張るとか生きていこうとするのはどうしてなのか、その理由を考える。その定義も見事ですけれども、その理由が誰にもすぐにわからない点が大事だと思います。

重要な問題は答えがすぐに生まれません。それと付き合う「耐性」みたいなものが文系学部の先生、学生にはあります。すぐには答えが出なくても耐えられる、それも文系学部の強みです。

一楽 そうですね。大谷大学は文学部1学部から4学部となりましたが、その願いというのは一緒です。

決してぶれないようにするために、どの学部学科に入っても、自分が人間であることを一度考えてみようという授業を設けています。

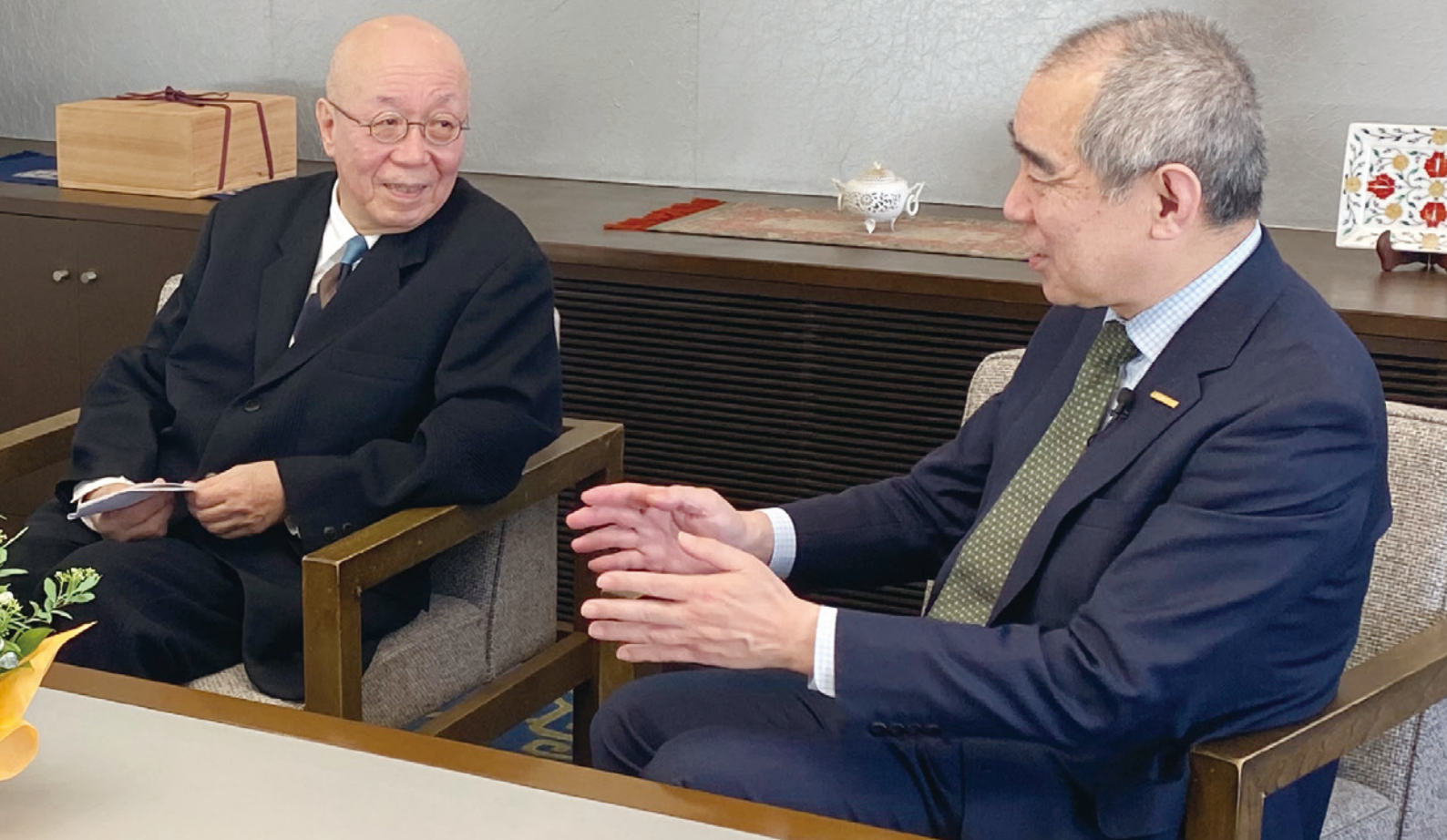
その授業で「あなた人間ですか?」と聞いたら「何を訊いているのか」と言われるのですけれども、「では何をもって人間というの?」というのだんだんわからなくなってきました。

でも、悩むことはものすごく大事ですよ。学生たちは「悩んだら悪い」みたいにどこか考えているようです。世間では早く答えを出すことや効率が重視されていますが、「悩んだ人はいっぱいいるから」「お釈迦さまも親鸞聖人もそうです」と話すと、「悩んでもいいのか」と気づきます。それは学生の特権でもあり、たくさん悩むべきだと私は思います。

もちろん、これは生きるうえで大切なことですので、「人間学」という授業に限らず、「人間」について考える「根っこ」を育てるように、大学での学びを提供しています。

鷺田 「死ぬとわかっているのに人はなぜ生きていけるのか」を考えるとき、それは決して抽象的な問題ではありません。介護施設やホスピス、病院で、死という出来事は日常的に起きています。そんなときに、文系学部の学生は、すぐに答えが出なくても、その問題そのものに「ああでもない、こうでもない」と、思いあぐねている人とじっくり付き合えます。これは、私が文学部で学んだことの財産の一つだと思うのです。

すぐ答えを出さなくても怖くない、考え続けることの方がむしろ本当の答えにつながるという感覚を持てる人は時代にも人にも「流されない」のです。そういう意味で私は、文系学部の出身者は、答えが出ないことに「耐える力」があると思っています。



慈悲 — 寄りそうこと —

一楽 鷺田先生が「臨床」哲学を提唱されたことを承け、真宗学科の中に「現代臨床コース」を設置しています。文献の研究だけではなく、そこに立ってどう生きるか、どう人生に実を結ぶかという「実」を大切にしています。

鷺田 臨床というのは、〈ベッドサイド〉という意味で、〈苦しんでいる人の場所に出かけていく〉という意味です。

学びというのは自分の知性を世の中のためにどう役に立てられるかです。

一楽 お釈迦様は人をランクづけしませんでした。お釈迦様の智慧は、他者とどう生きていけるか、関係の中で大事にし合うということが原点にあります。「寄りそう知性」の「知性」という言葉は仏教では智慧ですが、「慈悲」という言葉とも重なります。本当に知的であるということは、慈悲の心でお互い敬い合うことだと受け取っています。

お釈迦様や親鸞のことに触れてもらうと、「こんな見方があるのですね」とか「親鸞って優しいのですね」と学生が言ってくれます。教員としてもっと頑張らないといけないと思うきっかけになります。

鷺田 私が〈寄りそう〉ということにリアルなイメージが持てたのは、東日本大震災について市民集会を開催した時です。最後にある先生が「皆さんにとって良い専門家はどのようなものですか?」と訊かれたのです。そうしたら市民の方が「一緒に考えてくれる人」が本当の良い専門家だと言ってくださいました。本当に身に沁みました。

一楽 そのように大谷大学の「Be Real 寄りそう知性」を見ていただいてありがとうございます。

しかも「Be」がついていることが大事なんです。「Real」だけだと、下手すると論理だけに終わるかもしれませんから。

鷺田 「あなた自身が」どうなのか、という点が問題になるのですね。

一楽 「Realであれ」ということですからね。

問いながら歩む

一楽 大谷大学第3代学長佐々木^{ささき}月^{つき}樵^{げっしょう}先生が「大谷大学樹立の精神」を100年前に掲げておられます。大谷大学

は宗教・仏教を基にした人間形成の学校でありたいということ。もう1つは当時お寺や教団の中に閉じ込められていた仏教を、学校を通して一般の方にも解放していきたいという思いが非常に強く表れています。宗教のものの見方・考え方を持たないと流行に流されてしまうかもしれません。その時に「三モットー」を掲げられています。その1つ目が「本務遂行」です。しかし、なかなか、自分のなすべきこと、何をするためにここにいるのかという「本務」がなかなかはっきりしません。2つ目が「相互敬愛」です。お互いに大事にしましょう、と。そして3つ目が「人格純真」です。これは〈ごまかさない〉という意味だと思います。どうしても世の中の流れに乗りがちですけれども、本当にそれでいいのかということ問いながら歩めということです。「三モットー」は、100年たった現在、かえって大事にしないといけないなと思っています。

卒業生から聞く言葉に「もっと勉強しておけば良かった」があります。在学中にこうしておけば良かったという人の方が充実した大学生活を送ったと言えるかもしれませんね。

鷺田 私が大谷大学で担当していた大学院の学生に、ラジオのパーソナリティの方がいました。彼女は仕事がありますので修士を2年ではなく最初から4年間のコースで学んでいました。その学生さんは、「入学した時は、修士号をできるだけ早く取って早く修了したいと思っていたけれど、実際に勉強を始めたらずっといたいという気持ちに変わった」と言ってくれました。

一楽 それは大変うれしい言葉です。

鷺田 卒業生の話題が出ましたが、最近各大学ともホームカミングデーを開催しています。旧交を温めるだけではなく、ポイントが2つあると考えています。1つは、「学び直し」です。大学で答えが出なかった問いを、いろいろな経験を経た上で考える。もう1回大学で学び直すということは大切なことだと思います。もう1つは、学ぶ人や後輩を応援するという、どういう応援ができるか相談できる場がホームカミングデーである。そんなイメージに変えられたらいいと思います。

一楽 「学んでおけば良かった」で終わらせるのではなく、「今が学び時です」、「遅くありませんよ」と訴えていきたいと思っています。

本日は、ありがとうございました。



わしだ きよかず
鷺田 清一

京都府出身。

京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。

大阪大学総長(2007～2011年)や京都市立芸術大学の理事長・学長(2015～2019年)を務めた。

大谷大学教授(2011～2015年)。専門は臨床哲学、倫理学。『モードの迷宮』(ちくま学芸文庫)、『「聴く」ことの力ー臨床哲学試論』(ちくま学芸文庫)、『所有論』(講談社)など著作多数。



いちらく まこと
一楽 真

石川県出身。

大谷大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。

2018年、学位論文「親鸞の救済論」により、大谷大学から博士(文学)の学位を取得。

大谷大学教授(2009年～)、第29代 大谷大学長(2022年～)。

専門は真宗学。『シリーズ親鸞<第5巻>親鸞の教化ー和語聖教の世界』(筑摩書房)、『日本人のこころの言葉 蓮如』(創元社)など。

わけみ あきら
聞き手: 采翠 晃

無盡燈編集委員(大谷大学 教授)

〈対談日:2025年2月〉

この対談を動画で観たい方はコチラ!
(1年間の限定配信)



<https://www.youtube.com/watch?v=2aWS39kl-tc>

Be Real 寄りそう知性 Realに込めた想い



https://www.otani.ac.jp/be_real/

表紙絵への想い

畠中光享先生 インタビュー



畠中光享先生には、同窓会報『無盡燈』の表紙絵を108号(1997年10月発行)から長年ご担当いただき、この150号(42作品)をもって終了することとなりました。

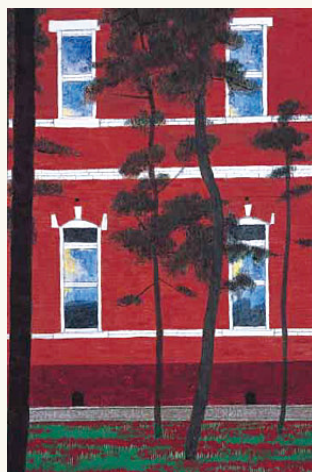
この機会に先生に、大学時代の思い出、絵の世界を目指したきっかけ、インドへの想い、同窓会と表紙絵に関する思い出などについて、お話をうかがいました。



108号
アーナンダとマータンギー (1997.10)



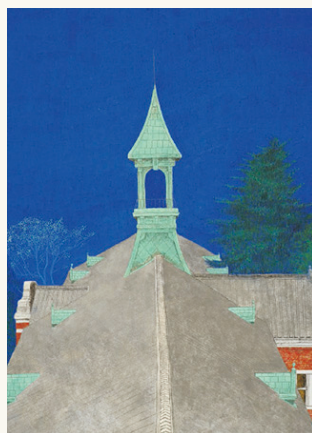
116号 尋源 (2001.12)



124号 彼岸の頃 (2005.9)



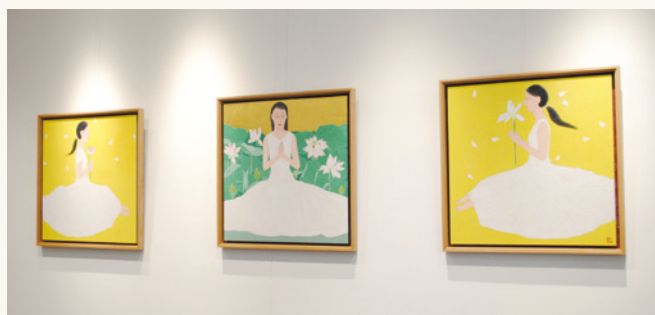
136号 煙 (2011.9)



138号 百年目の尋源館 (2013.9)



149号 天災の風景 (部分) (2024.6)



■ 表紙絵をご担当いただいた経緯を教えてください

1997年に佐々木令信先生(名誉教授/文学部史学科)よりお話をいただき、2~3年間の担当だろうと思い引き受けたところ、28年も続きました。指導教員としてご指導いただいていた藤島達朗先生(名誉教授/文学部史学科)との関係で、佐々木先生とは学生時代からのお付き合いでした。

■ 歴史を専攻されたきっかけは

高校卒業後は色々なことがありましたが、父親から「ただの坊さんになってくれた方が尊い、仏教を学びに大谷大学に行かんか」と言われたことが転機となり、大谷大学を目指しました。

もともと歴史に興味があり、中学生の頃、地元の奈良で『奈良県文化財調査報告書』を愛読書として、文化財に指定されている仏像を全て見てまわっていました。

そんな経験もあり、大谷大学では日本仏教史を専攻しました。当時は月に一度の史跡踏査に加え、年に一度は泊りがけでの現地調査があり、とても有難かったことを記憶しています。

また、在学中のゼミ発表では「解脱上人貞慶」を選び、興福寺や笠置寺など頻繁に訪れていたのですが、大学を離れて数十年後の2018年、三百年ぶりの「興福寺中金堂落慶」にあたり14人の祖師像制作のご依頼をうけた折、最後の祖師像が「貞慶」であったことは不思議なめぐり合わせだったと感じています。

■ 絵画を専門にされたのはいつ頃ですか

幼少期より絵も好きで描いてきたのですが、専門にしたいと考えたのは大学4年生の頃です。きっかけは個展を開いたことでした。

入学した年に短期大学部に幼児教育科が開設されて画家の下村良之介先生が教員として着任されました。2年生の時、縁あって知り合い、授業の無い時間は図工室を使わせてもらうことができました。卒業後、インドに行くまでの3年間、松原祐善元学長の公認で使わせてもらえた自由な大学でした。

■ 先生とインドの関係はどのようなものですか

初めてインドに行ったのは1974年で、13カ月滞在しました。絵に行き詰っていたこともあったと思います。

最初は、ネパールに行き、大谷大学OBでネパール大使館の書記官をされていた菊池法純さんに下宿をお世話していただきました。その後、ネパールからインドへ行き、最初はひと月かけて仏跡を巡礼しました。私はインドの文字(デーヴァナーガリー)の読み書きはできたのですが話せなかったのを、

ネパールに戻って3カ月ヒンディー語の勉強に打ち込み、午前中は語学、午後は写生をして過ごしました。写生をしているとネパール人が寄ってくるので自然とネパール語もわかるようになりました。

今まで100回以上インドに行っていますが、同じところへ3回は行かないとわからないと思っています。

また、インドにいと、「私、私」と思っていた自分が、周りの人たちや自然のおかげで生かされていることがよくわかるようになりました。

■ 表紙絵はどのように選定されているのですか、また、絵とあわせてお寄せいただいているメッセージについてもお聞かせください

その時々で選んでいます。私は文章を書くのも好きなので、メッセージも大切にしています。メッセージが書けない絵は「ただ、きれいだな」で終わってしまうと思っています。前号(149号)の表紙絵「天災の風景(部分)」は、インドの水害を描いたものですが、能登半島地震で被災された方々に思いを寄せて選びました。2011年の136号の際は、東日本大震災の起こった年でもあったのでインドの原子力発電所を描いた「煙」を表紙絵にしました。特に大きな災害のあった時には、被災された方々の心に寄り添う人でありたい。「わが身に置き換えて」生きるしかないという思いで選んできました。

■ 最後に大谷大学に向けてのメッセージをお願いします

経営重視の大学も世の中にはたくさんありますが、大谷大学は他の大きな大学の真似をしてもしかたありません。小さくても真宗を基本とする仏教の大学であること、どの学部学科であっても仏教を基本においた大学であって欲しいと思います。

先生には長年にわたりお世話になりました。
ありがとうございました。



無盡燈ギャラリー

<http://www.mujinto-otani.org/gallery/index>



〈インタビュー:2025年1月〉

かわばた やすゆき
インタビュー 川端 泰幸
無盡燈編集委員
(大谷大学 准教授)

大谷大学と私



な み き お さ む
並木 治

名誉教授

教育と研究の接点 ～ 私なりの～

二十数年前、私は大谷大学で導入教育(FD)の立ち上げに携わる機会を頂いた。もともと不器用な私は、授業スキルに自信があったわけでは全くなく、しかしそれだけに余計、その必要性は人一倍感じる教員であった。

当時はほとんど意識していなかったことだが、今振り返ると長年にわたる私なりのジャン＝ジャック・ルソー研究や、「卒論指導」での学生諸氏との学び合い経験から、実に多くのものを得ていたことに気づく。これも、大谷大学が古くから堅持してきた卒業論文や外国語必修制度、海外研修での教員学生間の生きた体験・共感機会などが重視されてきた大学であったからこそ可能だったのだと、今改めて感じている。

ルソーの著作のなかで教育がとりわけ中心テーマとして扱われているのが『エミール』である。そこで見逃せない特徴は、教師とエミールの間に見られる、互いに学び合い、高め合い、決して相手の人格を否定しない相互成長関係である。最初、エミールが「われわれの生徒」と称されるように、読者との共有性が意識されるのとは対照的に、青年期が近づくと次第に生彩に富む直接話法での対話が増え、「私のエミール」という親しみのこもった感情的表現が目立つようになる。今の時代に置き換えれば、いわば大学生の青春時代が対象である。

この時期になると、著者ルソーがときに直接介入し、読者に語りかける。「生徒の弱点を直してやりたいなら、自分の弱点を彼に見せてやることだ。生徒が自分で体験している心の闘いと同じ闘いを、あなたも持っていることを分からせてやり、あなたを手本にして自分に克つことを学ばせるのだ。」(第4篇)

大谷大学でのFD策定に先立ち、当時の私たち研究会の

1947年 3月 東京都に生まれる
1969年 3月 早稲田大学第一文学部卒業(西洋史)
1975年 3月 早稲田大学大学院修士課程修了
(フランス文学)

1975年 4月～ 法政大学、駒沢大学、津田塾大学、
フランス・アルザス成城学園、
フランス・コルマル市文化センター
(日本語担当)などで非常勤講師

1991年 4月 大谷大学短期大学部助教授
1999年 4月 大谷大学文学部教授
2012年 4月 大谷大学名誉教授

1996年10月～1998年9月 大谷大学短期大学部長

【専門】 フランス文学・フランス文化

【著書・論文】

ジャン＝ジャック・ルソー ―政治思想と文学―
(早稲田大学出版部) 共著

『孤独な散歩者の夢想』における「植物学」が意味するもの
―「第七の散歩」を中心に― (大谷大学西洋文学研究会)

コペルニクスも変えなかったこと:
行動生物学的恋愛論 (法政大学出版局) 共訳

アランとルソー: 教育哲学試論 (法政大学出版局) 共訳
ルソーにおける「理性」の問題 (日本フランス語フランス文学
会) その後、学会誌31号に全文掲載

など

教員や、ゼミ生有志と共に、夜の最終授業終了後、頻繁に試行錯誤を承知で研究を重ねていたが、私が少々情けない失敗をつい正直に伝えても、学生諸氏の反応は意外なほど温かく、感動したのと同時に、思わぬ力を得たことを、今もつい昨日のこのように思い出す。

「人間」という日本語自体が示唆する如く、「自分」の成長とは「われわれ」との間柄の中ではじめて可能となること、私が「私たちのなかの私」として折り合いをつけて、はじめて成し遂げることができるという捉え方は、『エミール』の随所に見いだせる点である。

また、最近何かと注目される齋藤幸平氏も言うように、「学び成長しながら今とは違う自分になっていく」という上昇過程が、ヘーゲル哲学に示されている特質とすれば、ルソーにはその萌芽が既にいたるところに見られるとも言える。

ちなみに、私が曲がりなりにも難解なヘーゲルに親しめるようになったのも、「成長」をテーマに深く関心をもつ当時の一学生との貴重な御縁の賜物なのである。

私の自信や教師力は、果たして最後には向上したのだろうか。残念ながら答えはほぼ否である。しかし立派に育った元ゼミ生諸氏のさまざまな成長に立ち会えたことこそ、間違いなく私にとっての終生の思い出である。

同窓通信



私の大切な4年間

1995年度文学部文学科卒 こいけ いずみ
小池 泉

2023年10月に行われた日本空手協会熟練者世界大会、年齢別で行われる大会の形競技において金メダルを獲った。

始まりは空手道部への入部だった。初めて出会った空手という競技、体育会空手道部という環境、上下関係、全てが新鮮でひたすら稽古した。

卒業と同時に空手から離れたが、数年後に町道場に通い始めた。五大都市大会の京都府代表として出場の機会をいただき、そこで全国や世界で活躍された選手と共に過ごした事で空手への熱は高まった。自分ももっと大きな大会に出てメダルを取りたい。自分より格段に優れた選手に強い憧れを持った。

地元広島で新たな転機が訪れた。当時通い始めたばかりの道場を引き継ぐ事になったのである。今指導を行っている日本空手協会広島支部松濤塾、ここで突然先生と呼ばれる立場を押し付けられた。その重圧に初めて空手をやりたくないと思った。

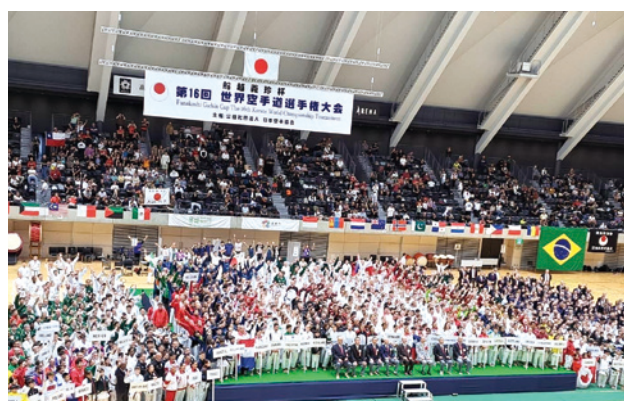
しかし、時と共に環境に慣れだんだん教える事にも熱が入り始めた。初めて道場生がインターハイに出場した時はとても嬉しかった。私にできる事は自分が頑張る姿を見せる事だった。それが精一杯だった。今でもそれは私の原動力である。先生と呼ばれて恥ずかしくないという一心でできる限り試合に出ている。悲願の国体出場が叶ったのは長女を出産してからだった。組手で国体に出場経験のある夫に追いついたと思った。そして長女もまた国体選手となった。

近年では道場生が全国大会に続いて出場してくれている。その子達の一步先を行ってやるという意気込みで挑んだ世界大会。日本の出場枠は各階級4名。YouTubeでライブ配信もあり道場生達もリアルタイムで応援してくれた。緊張と不

安と期待で迎えた本番。優勝する事ができ、海外選手からも祝福の言葉をいただいた。あの日の興奮は生涯忘れる事はないだろう。

人生の宝物となったこの経験は大学時代に私に空手を教えてくださった師範、監督、諸先輩、そして共に過ごした同期や後輩のおかげである。心から感謝している。もちろん今の活動を理解し、支えてくれている家族にも。次女も高校の空手道部で汗を流している。家族で空手に携われる毎日は部活の合宿のようだ。もちろん身体はキツくいつも時間に追われているが楽しい。

空手道部で過ごした4年間は私の大切な時間である。



同窓会活動報告

2024 Alumni Activity Report

2024年度「卒業・修了ならびに 同窓会新入会員歓迎祝賀会」 開催

2025年3月18日(火)、「卒業証書・学位記授与式」が挙行され、式典終了後の16時30分よりザ・プリンス京都宝ヶ池において、「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」(大谷大学、大谷大学同窓会、大谷大学教育後援会共催)が開催されました。2024年度、同窓会は約670名の新会員を迎えました。

一楽真学長、佐賀枝夏文同窓会会長の祝辞の後、卒業・修了生代表として全日本中国語スピーチコンテストで活躍された三岡萌香さん(国際学部国際文化学科卒業)の乾杯発声により祝宴が始まりました。

会の終盤では、卒業・修了生有志による寮歌を披露していただき祝賀会は大変盛りあがりを見せました。学生生活も最後となるこの日、一時を惜しむかのように和やかな雰囲気の中、恩師そして友だちとの語らいが続けられました。



祝賀会写真はこちらをチェック

大谷大学同窓会



2024年度同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式を行う

卒業・修了ならびに同窓新入会員歓迎祝賀会の席上、同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式を行いました。

この「菩提樹賞」は、卒業・修了年次生のうち、在学期間中に学術・文化・スポーツ・ボランティア活動などの分野で顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生又は課外活動団体を表彰し、学生生活の充実に資することを願って同窓会より贈るものです。

2024年度は、以下の2団体が表彰されました。今後、みなさんが一層活躍されることを期待しています。

〈分野:ボランティア〉

大谷大学チャレンジ企画
「地域に寄りそうプロジェクト」
GOEN食堂

(代表: 浅野 顕成さん/文学部 真宗学科卒業)

大谷大学周辺で生活する住民を対象としたコミュニティ食堂を開催し、孤食解消・参加者間の年代を問わないコミュニティ形成に貢献されました。2024年7月以降12回開催され、親子連れや小学生を中心に、毎回さまざまな方が参加されました。その取り組みは新聞、テレビでも紹介されました。

(正式名称:GOEN食堂「大谷大学を中心として地域に貢献していこう~コミュニティ食堂の開催によって孤食の解消を目指す~」)



〈分野:その他〉

大谷大学学生会
大谷ほっとコーヒープロジェクト

(代表: 中野 隆希さん/教育学部 教育学科卒業)

2022年度から学生会が中心となり、ブレンドからネーミング、パッケージデザインまで学生が一貫して関わり、大学新オリジナルコーヒー「尋珈琲(じんこーひー)」を開発しました。完成披露会には、各種マスコミ14社が参加し、テレビ・ラジオ、雑誌や新聞など、数多くの報道機関に取り上げられました。



同窓会活動報告

2024 Alumni Activity Report

2024年度「大谷大学公開講演会」開催報告

2024年7月～9月にかけて、「大谷大学公開講演会」ならびに「支部総会」を全国57支部53会場で開催しました。

この講演会は、全国に80支部ある同窓会支部と大谷大学とが協働して開催するもので、同窓生・在学生はもとより広く一般市民にも公開され、地域社会の文化興隆に大きな役割を果たしています。

大型台風の影響により19支部17会場が急遽中止となってしまいましたが、開催された支部では支部総会や懇親会も行われ、各地域での同窓生同士のつながりを深めておられました。

(2025年度の開催については、本誌P.16をご確認ください)



長浜支部



京都支部



網走支部

「第26回ホームカミングデー」開催報告

「第26回ホームカミングデー」を学園祭期間中の2024年11月9日(土)に開催しました。

当日は約180名の同窓会員ならびに約30名の先生方(名誉教授、現役教員等)にお越しいただきました。職域・地域支部ブースを設置したほか、SNS企画参加者にガチャガチャで「一楽学長オリジナルキーホルダー」等が当たるなど、会場内は多に盛り上がりました。

また、クラブ活動活性化企画として、「落語研究会」OB・OG、「男声合唱団」OBにご協力いただき、在学生へのクラブ活動PRも実施しました。



男声合唱団OBによる合唱



落語研究会OBによる落語



ホーム
カミングデー
の様子



大谷大学同窓会 HP

当日の様子は本誌裏面(P.32)や同窓会ホームページでもご覧いただけます

2025年度の同窓会活動について

最新情報はこちらをチェック

大谷大学同窓会



同窓会総会開催

2025年5月14日(水)に同窓会総会が開催され、
右の議案が承認されました。

【議 案】 (1)2024年度事業報告及び収支決算報告
(2)大谷大学同窓会役員の改選について
(3)2025年度事業計画及び収支予算(案)

【報告事項】 (1)特定非営利活動法人尋源舎の活動について
(2)その他

2024年度大谷大学同窓会収支決算書

収入の部(単位 円)		支出の部(単位 円)	
科 目	決算額	科 目	決算額
1. 前年度繰越金	33,237,065	1. 事業費	9,604,022
2. 会 費	21,606,000	本部事業費	3,392,651
会費(1)	756,000	支部事業助成費	3,185,440
会費(2)	20,850,000	同期会・OB会等開催助成費	460,000
3. 入会金	3,475,000	学生会助成費	200,000
4. 寄付金	730,000	新入会員歓迎費	2,365,931
5. 同窓会基金取崩収入	0	2. 刊行費	1,937,231
6. 雑収入	587,136	無盡燈刊行費	1,567,720
7. 同窓会運用資金	25,000,000	印刷製本費	369,511
合 計	84,635,201	3. 事務費	3,633,850
		本部事務局費	40,326
		活動費	380,000
		通信費	3,213,524
		4. 旅費	4,688,959
		5. 会議費	977,008
		6. 委託費	1,965,502
		7. 雑費	180,282
		8. 同窓会基金繰入支出	20,595,238
		9. 同窓会活性化準備金	149,686
		10. 同窓会運用資金繰入支出	25,000,000
		11. 予備費	0
		合 計	68,731,778

収入の部-支出の部= 15,903,423(次年度繰越金)

2025年度大谷大学同窓会収支予算書

収入の部(単位 円)		支出の部(単位 円)	
科 目	予算額	科 目	予算額
1. 前年度繰越金	15,903,423	1. 事業費	11,575,000
2. 会 費	22,350,000	本部事業費	3,760,000
会費(1)	750,000	支部事業助成費	4,065,000
会費(2)	21,600,000	同期会・OB会等開催助成費	700,000
3. 入会金	3,600,000	学生会助成費	200,000
4. 寄付金	500,000	新入会員歓迎費	2,850,000
5. 同窓会基金取崩収入	0	2. 刊行費	2,926,000
6. 雑収入	480,577	無盡燈刊行費	2,371,000
7. 同窓会運用資金	25,000,000	印刷製本費	555,000
合 計	67,834,000	3. 事務費	4,226,000
		本部事務局費	75,000
		活動費	380,000
		通信費	3,771,000
		4. 旅費	5,260,000
		5. 会議費	1,648,000
		6. 委託費	2,260,000
		7. 雑費	280,000
		8. 同窓会基金繰入支出	3,540,000
		9. 同窓会活性化準備金	1,200,000
		10. 同窓会運用資金繰入支出	25,000,000
		11. 予備費	9,919,000
		合 計	67,834,000

2025年度役員一覧 (2025.5.14現在)

会 長 藤 嶽 明 信
副会長 加 藤 隆 昭
副会長 高 木 文 善
理事長 東 舘 紹 見
常務理事 奥 村 豊
常務理事 藤 原 憲
常務理事 日 野 隆 文

理 事 木 村 清
理 事 栗 原 宣 如
理 事 菅 原 信 顕
理 事 月 輪 淳 裕
理 事 難 波 明 則
理 事 藤 原 一 章
理 事 本 間 義 悦

理 事 村 上 秀 磨
理 事 横 田 力
理 事 和 田 一 丸
監 事 長谷岡 英 信
監 事 藤 坂 初 裕
顧問 一 楽 真
常務理事 平 野 寿 則

常務理事 速 水 肇
常務理事 藤 元 雅 文
常務理事 中 島 弘 喜
常務理事 廣 川 智 貴
常務理事 采 翠 晃
学内理事 川 端 泰 幸

(無盡燈編集委員 川端 泰幸・古谷 伸子・采翠 晃)

全国各地での「大谷大学公開講演会」開催！

【大谷大学公開講演会】

2025年度も全国各地で「大谷大学公開講演会」を開催します。是非、ご参加ください。
大谷大学公開講演会の開催日時、会場等については、本誌P.16または同窓会ホームページをご確認ください。 ※天候等により、急遽、開催中止となる場合はホームページにてお知らせいたします。

大谷大学
公開講演会詳細



大谷大学同窓会 HP

2025年7月上旬より、全国71会場で開催！ 共通テーマ「Be Real 真実と現実」

2025年度「大谷大学公開講演会」開催一覧 【77支部71会場】

支部名	開催日程	講 師	講 題
函 館	7月23日(水)	元 教 授 井 上 尚 実	真実と現実 ―現代世界における親鸞思想の意義―
小 樽	7月24日(木)	元 教 授 井 上 尚 実	真実と現実 ―現代世界における親鸞思想の意義―
札 幌	8月31日(日)	教 授 箕 浦 暁 雄	真実と現実
岩 見			
夕 張	7月12日(土)	学 長 一 楽 真	間思して遅慮することなかれ
砂 川			
北 国	7月9日(水)	名誉教授 R．F．ロ ー ズ	予が如き頑魯のもの ―源信の凡夫観
旭 川			
室 蘭	7月25日(金)	名誉教授 藤 嶽 明 信	Be Real 真実と現実 ―仏教・真宗を通して―
深 川	9月10日(水)	准 教 授 本 明 義 樹	Be Real 真実と現実
十 勝	7月8日(火)	名誉教授 R．F．ロ ー ズ	予が如き頑魯のもの ―源信の凡夫観
網 走	8月26日(火)	教 授 木 越 康	Be Real 真実と現実
紋 別	8月25日(月)	教 授 木 越 康	Be Real 真実と現実
名 寄	9月12日(金)	教 授 中 野 加奈子	「つながり」をどう構築するのか ―貧困・孤立の現実から考える
釧 根	9月2日(火)	准 教 授 藤 原 正 寿	Be Real 真実と現実 ―親鸞聖人からの問いかけ―
青 森	9月11日(木)	教 授 東 館 紹 見	「須要なる世間の学科」 ―大谷大学における学問について―
岩 手	8月21日(水)	名誉教授 門 脇 健	親鸞聖人とお葬式
宮 城	9月10日(木)	教 授 中 野 加奈子	「つながり」をどう構築するのか ―貧困・孤立の現実から考える
秋 田	9月10日(水)	教 授 東 館 紹 見	「須要なる世間の学科」 ―大谷大学における学問について―
山 形	7月30日(水)	学 長 一 楽 真	間思して遅慮することなかれ
福 島	9月28日(日)	教 授 山 本 和 彦	Be Real 真実と現実 ―智慧と慈悲の実践―
茨 城	10月4日(土)	名誉教授 加 来 雄 之	真宗のリアリティ ―如来と僧伽―
栃 木	9月13日(土)	准 教 授 大 原 ゆ い	家族を介護するケアラーの実態と支援の課題
群 馬	8月20日(水)	名誉教授 門 脇 健	親鸞聖人とお葬式
埼 玉	9月6日(火)	教 授 ア マ ミチヒロ	「世を離れて世に処せよ」
千 葉	9月16日(火)	名誉教授 加 来 雄 之	真宗のリアリティ ―如来と僧伽―
東 京	8月6日(水)	教 授 箕 浦 暁 雄	真実と現実
神 奈 川	8月7日(木)	教 授 箕 浦 暁 雄	真実と現実
山 梨	9月14日(日)	准 教 授 大 原 ゆ い	家族を介護するケアラーの実態と支援の課題
信 濃 学 友 会	9月17日(水)	講 師 松 金 直 美	真宗異義事件 ―現実での対立と真実の教えを求めて
三 条	8月28日(木)	准 教 授 藤 元 雅 文	Be Real 真実と現実 ―親鸞聖人の歩みに学ぶ―
上 越	8月29日(金)	講 師 小 川 直 人	真宗の詮を鈔し、浄土の要を摭(ひろ)う
静 岡 県	8月26日(火)	准 教 授 川 端 泰 幸	Be Real 真実と現実 戦国社会と真宗
三 為 会	8月20日(水)	教 授 福 島 栄 寿	いま、『生まれる 生きる 生かされる』から考えさせられること
尾 張 学 友 会	9月16日(火)	教 授 藤 枝 真	Be Real 真実と現実 ―人口減少社会における「吊う人間」―
三 重	9月10日(水)	教 授 箕 浦 暁 雄	真実と現実
大 垣	9月8日(月)	教 授 采 肇 晃	現実の向こうがわの真実
岐 阜	8月29日(金)	准 教 授 本 明 義 樹	Be Real 真実と現実
郡 上	8月28日(木)	准 教 授 本 明 義 樹	Be Real 真実と現実
飛 騨	8月2日(土)	教 授 藤 枝 真	Be Real 真実と現実 ―人口減少社会における「吊う人間」―
富 山	8月20日(水)	教 授 富 岡 量 秀	Be Real 真実と現実 ―真実を知る・現実を知る「学びと育ち」とは―
高 岡	―	―	―
金 沢	8月1日(金)	准 教 授 藤 原 正 寿	Be Real 真実と現実 ―親鸞聖人からの問いかけ―
能 登	8月2日(土)	准 教 授 藤 原 正 寿	Be Real 真実と現実 ―親鸞聖人からの問いかけ―
小 松	8月21日(木)	講 師 松 金 直 美	真宗異義事件 ―現実での対立と真実の教えを求めて
大 聖 寺	8月21日(木)	講 師 小 川 直 人	真宗の詮を鈔し、浄土の要を摭(ひろ)う
福 井	9月12日(金)	学 長 一 楽 真	間思して遅慮することなかれ
若 狭	―	―	―
長 浜	7月27日(日)	教 授 木 越 康	Be Real 真実と現実
湖 東	8月30日(土)	名誉教授 佐 賀 枝 夏 文	正しい教えとゆるぎない生きる基盤について
湖 南	8月31日(日)	教 授 四 方 保 仁	Be Real 真実と現実
湖 西	9月6日(土)	講 師 小 川 直 人	真宗の詮を鈔し、浄土の要を摭(ひろ)う
京 都	8月24日(日)	教 授 平 野 寿 則	Be Real 真実と現実 ―東本願寺東照宮御霊殿考―
丹 但	9月5日(金)	准 教 授 川 端 泰 幸	Be Real 真実と現実 戦国社会と真宗
丹 後	―	―	―
大 阪 北	9月5日(金)	教 授 田 中 久美子	Be Real 真実と現実
大 阪 東			
大 阪 南			
神 戸			
阪 神	9月16日(火)	教 授 木 越 康	Be Real 真実と現実
和 歌 山	8月31日(日)	准 教 授 川 端 泰 幸	Be Real 真実と現実 戦国社会と真宗
奈 良	8月21日(木)	教 授 四 方 保 仁	Be Real 真実と現実
播 磨	9月3日(水)	教 授 四 方 保 仁	Be Real 真実と現実
鳥 取	9月1日(月)	教 授 田 中 久美子	Be Real 真実と現実
島 根	9月2日(火)	教 授 東 館 紹 見	「須要なる世間の学科」 ―大谷大学における学問について―
岡 山	8月20日(水)	准 教 授 コンウェイ マイケル J.	娑婆世界と安養浄土のかわりめ
福 山	8月30日(土)	教 授 采 肇 晃	現実の向こうがわの真実
広 島	8月28日(木)	学 長 一 楽 真	間思して遅慮することなかれ
山 口	9月16日(火)	准 教 授 藤 原 正 寿	Be Real 真実と現実 ―親鸞聖人からの問いかけ―
四 国	9月2日(火)	教 授 新 田 智 通	仏教における輪廻の意味 ―共通テーマ「Be Real 真実と現実」を踏まえつつ―
福 岡	9月6日(土)	教 授 木 越 康	Be Real 真実と現実
久 留 米	8月26日(火)	教 授 采 肇 晃	現実の向こうがわの真実
佐 賀	8月26日(火)	教 授 山 本 和 彦	Be Real 真実と現実 ―智慧と慈悲の実践―
大 分	9月1日(月)	名誉教授 佐 賀 枝 夏 文	正しい教えとゆるぎない生きる基盤について
北 九 州	8月29日(金)	教 授 富 岡 量 秀	Be Real 真実と現実 ―真実を知る・現実を知る「学びと育ち」とは―
長 崎	8月25日(月)	教 授 山 本 和 彦	Be Real 真実と現実 ―智慧と慈悲の実践―
熊 本	9月1日(月)	名誉教授 藤 嶽 明 信	Be Real 真実と現実 ―仏教・真宗を通して―
宮 崎	9月2日(火)	名誉教授 藤 嶽 明 信	Be Real 真実と現実 ―仏教・真宗を通して―
鹿 児 島	8月27日(水)	学 長 一 楽 真	間思して遅慮することなかれ
韓 国 同 窓 会	未定	―	―

は仏教公開セミナーとして、NPO法人「尋源舎」と共催。

同窓会支部だより

鹿児島支部の現状と課題

鹿児島支部長 とみしげ 富重 ますく 真直

鹿児島の歴史を振り返ると、鹿児島県および隣県の一部が1597(慶長2)年に一向宗(浄土真宗・真宗)の信仰が約300年にわたり禁制された関係上、真宗系のお寺は明治以降の開教ではあるものの、真宗の教えは脈々と受け継がれてきました。

薩摩藩には外城が113城あり、外城の城主によって二通りの様相があったとされています。地区によっては信仰の禁止を取り締まるはずの役人も身分を超えて阿弥陀如来の教えを雨音で講の内容が知られないよう雨の日にガマ(洞窟)で講を開いていた、ともいわれています。

さて、真宗弾圧の歴史を持つ鹿児島ですが、現在、県内には72ヶ寺の大谷派寺院があり、鹿児島支部の同窓会員は、鹿児島県・沖縄県に約150名の方が登録されています。活動といたしましては、年に一回、夏に大谷大学公開講演会・支部総会を開催しており、毎年約10~20名の参加をいただいています。開催チラシは無盡燈に同封していただき、寺院72ヶ寺には別途郵送にて案内をお送りしている現状です。

鹿児島支部の課題としては、初めて参加される方も参加し易い良い工夫をしなければ…と痛感しています。大谷大学

ならびに同窓会員の協力を得ながら、鹿児島支部として活動が途絶えることのないように微力ながら適切な運営を心がけております。

県には雄大な桜島や錦江湾、多くの離島があり、豊かな自然と黒豚やうなぎなどおいしい特産物がたくさんあります。是非一度、鹿児島にお越しください。



能登支部より — 寄り添う —

能登支部長 かつらぎ 葛城 しんしょう 眞証

この度の震災にご支援を賜わり感謝申し上げます。

当地では、被災建物の解体が進み空地と、悲しみと不安を宿した仮設住宅の佇まいが広がっています。

その仮設住宅団地に近接した公共施設を会場として昨年8月に「寄り添い つなぐ」をテーマに「大谷大学公開講演会」を開催できました。

「寄りそう知性」は本学の教育メッセージであり、また、「寄り添う」ことは悲嘆に対する大切な姿勢です。思いを共有する諸団体の参画を頂き、前学長木越康先生の講演「寄りそう知性と仏教」、大学書道部の「書道パフォーマンス」、教区教化事業と共催した「茶話会」や臨床心理士による講話の提供、ボランティア団体による「子ども劇場」を実施内容とし、更に、会場地穴水組と鶴川組から開催費用と人的支援を得るなど、多くの方々の協力を頂いての開催でした。

当支部の活動は、公開講演会の開催が主です。例年30名程度の参加でしたが、今回は100名を超える参加者があり大きな喜びでした。

当面、震災に「寄り添い続ける」ことを願い、諸団体と連携を取りながら歩みを進めたいと思います。

なお、木越先生の講録は教区法話冊子『能登教壇』に掲載されます。また、当日は台風の影響で、書道パフォーマンスは中止となりましたが、後日、震災1年を前に作品を届けて頂きました。後輩たちの能登を思う心に感激しました。有難うございます。



書道パフォーマンス作品 右:私

課程博士の学位を授与

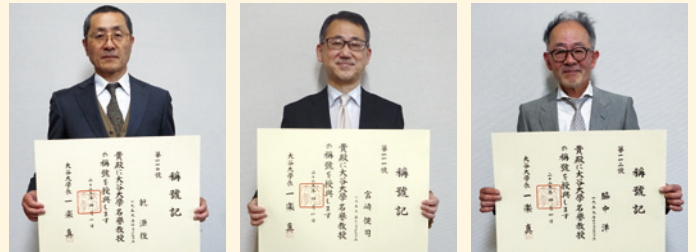
2024年度、博士後期課程修了者3名に博士(文学)の学位が授与されました。〈教務課〉



板先 唯人氏 (真宗学) 山雄 優生氏 (真宗学) 下村 優佳氏 (仏教文化)

名誉教授の称号贈られる

本学に永年勤務し、学術の成果をあげ本学に貢献された教授に贈られる名誉教授の称号が3名の先生に贈られました。授与式は2025年4月1日(火)に学長室において行われました。〈総務課〉



乾 源俊 名誉教授 (中国文学) 宮崎 健司 名誉教授 (日本古代史) 脇中 洋 名誉教授 (発達心理学/法心理学)

優秀賞と奨励賞のダブル受賞、2年連続優秀賞受賞は初の快挙!

公益財団法人関西交通経済研究センター主催「第17回(2024年度)懸賞論文」において、社会学部コミュニティデザイン学科第3学年の堀正樹さんが最高位の優秀賞(2年連続受賞は初快挙)、第2学年の岡田紗奈さんが奨励賞を受賞しました。どちらも地域連携プロジェクトによる現地での活動実践をもとに、学生個人としての研究を続け、この度の受賞となりました(学年は受賞時)。

この懸賞論文は、「次世代を担う方々の叡智を通じて調査、研究の新たな切り口を発掘し、関西圏における交通・運輸・観光等の一層の発展と地域社会の活性化に寄与するもの」という趣旨に沿い、『独創的でインパクトのある提案・提言』が求められます。

表彰式では、国土交通省近畿運輸局や関西の運輸・交通インフラの関係者の方々からも大変意義深い研究内容であると評価いただきました。

〈教育研究支援課〉



京丹後市青年会議所、(株)コギト担当者と受賞学生

大阪・関西万博インドパビリオンに 真宗総合研究所「仏教写本研究」が展示協力

大谷大学は大阪・関西万博インド館「バーラト」エントランスに設置の「悟りの樹」(菩提樹)およびその周辺展示に協力をしました。この展示にあたり、本学はインド政府より、仏教に関する専門的知識および所蔵するパーリ語で記されたヤシの葉の仏教写本(貝葉写本)の画像データの提供を依頼され、真宗総合研究所指定研究「仏教写本研究」(研究代表者:ダシュ・ショバラニ教授)が企画に協力しました。「悟りの樹」(菩提樹)には、本学所蔵の貝葉写本の画像や、様々な文字で書かれたブッダの金言が展示されています。

仏教の伝播と古代インドの筆記文化を表現する魅力的な展示が完成いたしましたので、インド館にぜひご注目ください!

〈教育研究支援課〉

※2022年3月、本学は長年にわたる仏教研究の推進に貢献した功績が評価され、インド政府から「ICCR第1回仏教学振興賞」(ICCR Award for Promotion of Buddhist Studies)を受賞しました。

大阪・関西万博
公式キャラクター
「ミャクミャク」



ダシュ教授と「悟りの樹」(菩提樹)

最新情報はこちらをチェック

大谷大学



大学人事情報

2024年5月1日～2025年4月30日

名誉教授の称号授与

乾 源俊
宮崎 健司
脇中 洋

授与日:2025年4月1日

執行部の交代

【教育・学生支援担当副学長 兼文学部長】

藤元 雅文

【研究・国際交流担当副学長】

鈴木 寿志

【社会学部長】

赤澤 清孝

【国際学部長】

アマ ミチヒロ

2025年4月1日付(各通)

館長等の交代

【博物館長】

松川 節

【真宗総合研究所長】

鈴木 寿志

【人権センター長】

志藤 修史(再任)

2025年4月1日付(各通)

定年退職

【教育職員】

乾 源俊(教授/文学部)

井上 尚実(教授/文学部)

江森 英世(教授/教育学部)

國賀 由美子(教授/文学部)

宮崎 健司(教授/文学部)

脇中 洋(教授/社会学部)

2025年3月31日付(各通)

契約期間満了による退職

【教育職員】

大関 綾(任期制助教/文学部)

平田 公威(任期制助教/文学部)

古川 拓磨(任期制助教/国際学部)

増成 一倫(任期制助教/文学部)

松岡 淳爾(任期制助教/文学部)

【事務系嘱託】

岩田 麻子(教育研究支援部)

北村 尚美(企画・入試部)

権藤 絢子(教育研究支援部)

渋谷 幸子(企画・入試部)

夏 知子(企画・入試部)

八木 美重(企画・入試部)

【寮監】

中原 大貴(貫練学寮)

【教職アドバイザー】

佐藤 真一

須川 和幸

美濃部 俊裕

【学習支援主任アドバイザー】

鳥越 覚生

【学習支援アドバイザー】

阪本 佳郎

萬田 恵子

【PD研究員(真宗総合研究所東京分室)】

磯部 美紀

澤崎 瑞央

2025年3月31日付(各通)

退職

【学監・事務局長】

柘植 至

2024年6月30日付

【教育職員】

阿部 利洋(教授/社会学部)

安田 誠人(教授/教育学部)

白取 耕一郎(講師/社会学部)

温 秋穎(任期制助教/国際学部)

2025年3月31日付(各通)

【事務職員】

林 健太郎(総務部)

2024年7月12日付

【事務系嘱託】

川崎 世里奈(総務部)

2024年6月30日付

岩崎 千裕(教育研究支援部)

2024年11月30日付

植川 佳菜江(学生支援部)

澤田 真美翔(企画・入試部)

2025年2月28日付(各通)

【校医】

山口 智美

2024年7月31日付

新規採用

【学監・事務局長】

速水 馨

2024年7月1日付

【教育職員】

山本 亮介(教授/教育学部)

安部 哲哉(准教授/教育学部)

三宮 直樹(准教授/社会学部)

矢野 永吏子(准教授/教育学部)

工藤 克洋(講師/文学部)

源嶋 孝太(講師/教育学部)

鳥越 覚生(講師/文学部)

陸 穎瑤(講師/文学部)

藤原 智(任期制講師/文学部)

ベルグマン カロリーネ A.

(任期制講師/国際学部)

赤阪 辰太郎(任期制助教/国際学部)

磯島 浩貴(任期制助教/文学部)

亀山 裕樹(任期制助教/社会学部)

久留島 元(任期制助教/文学部)

下村 優佳(任期制助教/文学部)

山雄 優生(任期制助教/文学部)

【事務職員】

新居 美春(総務部付)

松田 純佳(総務部付)

2025年4月1日付(各通)

【事務系嘱託】

杉江 裕子(教育研究支援部)

多田 美由紀(教育研究支援部)

長谷川 朋子(学生支援部)

2024年10月1日付(各通)

芦田 栞(教育研究支援部)

井口 愛(学生支援部)

伊勢戸 春香(企画・入試部)

今西 賀津美(企画・入試部)

内部 早紀(企画・入試部)

大蔵 美弥(企画・入試部)

大畑 博嗣(教育研究支援部)

細見 美梨亜(教育研究支援部)

安井 明子(教育研究支援部)

【寮監】

太宰 真証(貫練学寮)

【教職アドバイザー】

鈴木 靖彦

畑中 規良

藤本 鈴香

【学習支援主任アドバイザー】

平田 公威

【学習支援アドバイザー】

谷川 葉純

柳田 和哉

【PD研究員(真宗総合研究所東京分室)】

繆 寿楽

2025年4月1日付(各通)

昇格

【教授】

アマ ミチヒロ(国際学部)

井黒 忍(文学部)

四方 保仁(文学部)

徳田 剛(社会学部)

新田 智通(文学部)

【准教授】

戸次 顕彰(文学部)

本明 義樹(文学部)

2025年4月1日付(各通)



江上 浄信

先生を偲んで

2022年10月16日に江上浄信先生がご逝去されました。先生は1934(昭和9)年に福岡県の真宗寺院にお生まれになり、大谷大学文学部・大学院で真宗学を学ばれた後、1963年に大谷大学事務局に奉職なさいました。1970年に大谷大学文学部助手、1976年に講師となられ、その後教授として定年を迎えるまで真宗学の教育研究にご尽力くださいました。法然上人の本願念仏思想にご関心を持ち、着実な研究成果を多く発表しておられます。

私が先生とご縁を頂いたのは、先生が貫練学寮の学寮長をお務めになった時(1986年4月~1989年3月)でした。私は寮監として、2年間、学生たちと共に先生と「同じ釜の飯を喰う」仲となりました。江上先生はいつも静かでした。厳しく指導なさるのは年に一度の十秒ほど。幼くヤンチャな男子学生たちをいつも笑顔で見守ってくださいました。特に先生が大切になされたのは「寮内報恩講」。ほとんどお酒を召しあがらない先生もこの日だけは来客と酒を酌み交わし(先生は一杯だけ!)、真っ赤なお顔で歌われました。「ご正忌参らんか~い、ご正忌参らんか~い」。はじめてお聴きする歌でしたが、当時の寮生たちもきっとこの歌は記憶しているでしょう。寮生以外にも多くの学生たちに慕われていた江上浄信先生。優しくも深いご教示に、一同、深く感謝いたします。

大谷大学教授 木越 康



加来 一丸

先生を偲んで

2025年2月16日に加来一丸先生がご逝去されました(享年88歳)。先生は大谷大学を卒業された後、京都の中学校、高等学校教員を歴任される一方、京都大学フランス文学科やパリ大学ソルボンヌの講座で研修を積まれました。その後大谷大学他で非常勤講師を務められた後、1976年に大谷大学文学部専任講師に就任されました。1978年にはフランス政府招聘教員として渡仏され、研修を受けられました。

大谷大学文学部助教授をへて1986年に在外研究員としてフランス留学をされ、1990年に文学部の教授に就任されました。1990年には大谷大学図書館長を務められました後、2001年に退職されました。

先生は教育の傍ら、プルースト、スタンダール等のフランス小説作品の、主に樹木や植物の描写に注目・分析した論文を数多く著され、それを元に『フランス小説に描かれた花と樹木』を2000年に出版されました。

先生から向けられる、時に厳しいご指導もお人柄が滲む関西弁のおかげかやんわりと包み込まれるように感じられました。先生とは数年前、岩見至先生の告別式でお会いしたのが最後となってしまいました。東本願寺前の舗道脇の掲示板の言葉「人は出会いによって育てられ、人生は別れによって深められる」の通り、私は加来先生との出会いだけでなく、別れによっても多くのことを学んでいくことでしょう。

大谷大学名誉教授 番場 寛



河内 昭圓

名誉教授を偲んで

2024年12月7日、尊敬する恩師・河内昭圓先生のご逝去の報を受け、深い悲しみと共に感謝の念が溢れております。河内先生は本学文学部で中国文学を専攻され、大学院修了後に教壇に立たれました。在任中には、中国との学術交流に多大な貢献を果たし、数々の協定校との提携や学生交流の基盤を築かれました。その功績から「大学の外交官」と称され、中国訪問時には「大谷大学の河内先生」として特別な敬意を払われました。

学問の分野においても、先生は唐代仏教文学、とりわけ詩僧に関する研究に深い造詣をお持ちでした。古風な学者気質を貫きながらも、先生の厳格なご指導のもとで学び、鍛えられた多くの弟子たちは、今日もその学問の灯火を受け継ぎ、さまざまな分野で活躍しております。

また、河内先生は大の酒好きとしても親しまれ、研究会後には私たちに気前よくご馳走を振る舞い、和やかで温かい時間を提供してくださいました。関西弁のユーモアあふれる人柄と、厳しさの中に感じられる温かさは、私たちの心に深く刻まれています。河内先生の遺された足跡を胸に刻み、その教えを守りつつ、私たちも歩み続ける所存です。河内先生、本当にありがとうございました。

大谷大学教授 李 青



築山 修道

名誉教授を偲んで

2025年2月19日に大谷大学名誉教授の築山修道先生がご逝去されました。享年81歳でした。築山先生は大谷大学文学部で英文学を学ばれた後、大谷大学大学院修士課程、同大学院博士課程で哲学を専攻されました。1986年に本学に着任され、2009年まで本学の教育と研究にご尽力いただきました。1994年4月から1995年3月には在外研究員として、イギリスのケンブリッジ大学およびノッティンガム大学で研鑽を積まれました。また、2004年4月から2005年3月には、短期大学部長をお務めになり、大学運営の面でも大きな貢献をなされました。

先生のご専門は宗教哲学、比較思想、英文学と幅広いものでした。宗教哲学の分野では、キェルケゴールを中心に研究をされ、長年に渡ってキェルケゴール協会の理事をお務めになっておられました。先生の広範な知識は、多様なテーマを扱う短期大学部文化学科や文学部国際文化学科の授業で活かされておりました。

先生とは、仕事で一緒させていただく機会も多く、特に海外語学研修の引率でイギリスを訪れた際には大変お世話になりました。折々に先生の優しいお人柄に触れて心とんだことが思い出されます。本当にありがとうございました。

大谷大学教授 浅若 裕彦



礪波 護

先生を偲んで

2024年11月13日、礪波護先生が87歳で逝去された。先生は京都大学文学部を定年退官後、2001年4月に本学教授に着任され、定年後も特別任用教授・客員教授として、2010年3月まで教育・研究に尽力された。また2005年4月からは博物館長を務められたが、博物館好きの先生にとっては正に天職であった。

先生は中国史全般に造詣が深かったが、特に専門とされていたのは隋唐時代で、重厚な数々の論考は『唐代政治社会史研究』『隋唐佛教文物史論考』『隋唐都城財政史論考』の三冊に収められている。また、東洋史を一般に普及させることにも努めてこられ、専門的でありながら分かりやすい文章を数多く著された。そうした文章を集めた著書の一つ『敦煌から奈良・京都へ』の第Ⅱ部「大谷の響流」には博物館所蔵品のことなど本学に関する文章が収められている。

恩師の助言もあり、当初は仏教史をなさなかった先生であるが、大谷派寺院のお生まれということもあり仏教史への関心は強く、40代半ば以降、多くの論考を著されることになる。本学では先生が得意とされる宗教関係の文物を扱う授業をされ、学生に多大な影響を与えられた。この上ない学恩に心から感謝申し上げたい。

大谷大学教授 松浦 典弘



豊住 征子

先生を偲んで

2024年8月12日、元・本学短期大学部教授豊住征子先生がご逝去されました。豊住先生は京都市立音楽短期大学(現・京都市立芸術大学)を経て愛知県立芸術大学で声楽を学ばれ、その後ドイツへと留学され、著名な歌手ゲルハルト・ヒッシュ氏からドイツリート(歌曲)を学ばれました。

帰国して後、当時の大谷大学短期大学部幼児教育科に着任され、退職されるまで保育者を目指す学生たちに音楽の楽しさ、そして童謡・唱歌の魅力について伝えてこられました。また本学で現在まで続く「子どものためのオペレッタ」を始められ、学外などでの発表を通して、学生たちに子どもの前で表現することの意味を伝えてこられました。幼教フェスティバルの前には学生と共に大学に泊まり込まれるほど熱心に指導され、その他にも卒論提出前にはご自宅でゼミ生たちの宿宿をされたり、と常に学生と共にいられた大変熱い先生でした。

お嬢様から息を引き取られる間際まで「サン、ハイ」と言っておられたとお聞きました。きっと学生と共に歌っておられたに違いありません。惜しむことなくご自分の音楽を伝えてくださった豊住先生。私も先生の想いを受け継いで、音楽の楽しさを学生たちに伝えていきたいと思っています。豊住先生、本当にありがとうございました。

大谷大学准教授 岡村 明日香



福島 光哉

名誉教授を偲んで

福島光哉先生が、2024年8月22日にお浄土に還られた。

先生は、1932年に大阪府に生まれ、京都大学文学部を卒業された。卒業後、しばし高等学校で教鞭を執られた。その後、岐阜県の永壽寺に入られたことを契機として、大谷大学の大学院に入学された。大谷大学では、安藤俊雄先生(第19代大谷大学長)に師事して、天台学を修められた。1965年に大学院博士後期課程を満期退学した後、1968年に専任講師に就かれ、1998年に定年退職されるまで、本学で天台学を教授された。その間に、学長補佐や学監・文学部長といった重責を担われたが、決して時間に余裕があるとは言えない中でも、研究の歩みを止められることはなかった。福島先生が最初に大谷派安居で『妙法蓮華経玄義序説』を講じられたのは、まさに学監・文学部長の職におられる最中のことであった。

福島先生の学問は、安藤先生を承けて天台学を確立し、浄土思想への影響を明らかにすることを目指すものであった。それは、博士論文にもとづいて出版された『宋代天台浄土教の研究』に結実している。

1998年に大谷大学名誉教授の称号を授与された。

合掌

大谷大学教授 采 翠 晃



三桐 慈海

名誉教授を偲んで

2024年12月8日、釈尊の成道会にあたる日に三桐慈海先生がご逝去された。先生は島根県のご出身で、1956年に本学文学部をご卒業後、大学院博士後期課程を満期退学。1969年に本学専任講師、1980年から1999年度末のご退職まで教授をお務めになった。その間、1986年からの二年間は短期大学部長の役職に就かれた。

先生は、横超慧日門下で中国仏教をご専門とされ、主として中国仏教草創期の鳩摩羅什から南北朝時代にかけての思想研究を課題とされた。鳩摩羅什門下の僧肇や竺道生らの基礎的研究は後に三論宗の吉蔵の研究へと展開し、後に三論研究といえば「大谷の三桐」と称されるようになった。

私が入学した頃(1973年)、先生は助教授で、穏やかな佇まいで『涅槃經』聖行品を講読されていたことをよく覚えている。今、『涅槃經』研究が私の中心的な課題の一つとなったのは先生のご恩のたまものである。また、先生は軟式テニス部(当時の呼称)の顧問を永くお務めになり、烏丸通の東横にあったテニス場で学生を相手にテニスに興じる姿をよく目にしたものである。

そんな優しい先生から受けたご恩は計り知れない。それを後輩に引き継ぐのが私たちの役目であると強く思う。三桐先生、どうも有難うございました。

大谷大学名誉教授 織田 顕祐

敬 弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

※同窓会本部

2025年3月31日現在 掌握分

河野 聰	文学部 (1961)	2014.03.17	猪甘 俊教	文学部 (1947)	2024.03.10	國島 惠遠	修 士 (1982)	2024.07.27
鈴木 良太郎	文学部 (1970)	2020.09.17	南市 牧	文学部 (1969)	2024.03.14	旭 賢洋	文学部 (1961)	2024.07.30
大森 裕子	文学部 (1998)	2021.02.11	大窪 源統	文学部 (1952)	2024.03.16	豊住 征子	会 友 (一)	2024.08.12
川原 豁	文学部 (1958)	2021.07.04	井上 道夫	文学部 (1969)	2024.03.17	松林 了	修 士 (1975)	2024.08.12
小川 修一	文学部 (1974)	2021.07.12	津山 明照	短 期 (1961)	2024.03.18	緒方 弘子	会 友 (一)	2024.08.14
高橋 弘依	大専門 (1947)	2022.05.29	逸見 護	修 士 (1978)	2024.03.18	松永 寛	文学部 (1976)	2024.08.16
重松 道宣	文学部 (1965)	2022.09.01	本多 久雄	修 士 (1980)	2024.03.23	須藤 隆成	修 士 (1957)	2024.08.20
小妻 篤	文学部 (1953)	2023.03.10	本莊 一治	文学部 (1956)	2024.03.24	庄村 健吾	文学部 (1966)	2024.08.22
松尾 正俊	文学部 (1952)	2023.07.11	大谷 修	大専門 (1947)	2024.03.30	福島 光哉	博 士 (1966)	2024.08.22
小妻 崇	文学部 (1984)	2023.07.24	藤條 昇文	修 士 (1961)	2024.04.06	浮蓮 明広	文学部 (1977)	2024.08.23
木村 恒雄	大専門 (1946)	2023.08.17	太田 祐周	会 友 (一)	2024.04.07	畠山 得雄	文学部 (1963)	2024.08.25
加藤 明子	会 友 (一)	2023.08.23	河本 いづみ	短 期 (1978)	2024.04.08	松本 玄逸	短 期 (1962)	2024.08.29
徳本 道輝	大専門 (1950)	2023.08.26	藤堂 秀丸	文学部 (1960)	2024.04.10	前坂 和明	文学部 (1970)	2024.08.下旬
山崎 元英	文学部 (1961)	2023.09.25	四辻 悌昭	文学部 (1963)	2024.04.12	山内 雅教	短 期 (1975)	2024.09.02
佐藤 保真	文学部 (1954)	2023.10.15	長谷部 昭一	大専門 (1949)	2024.04.14	堀河 実映	文学部 (1959)	2024.09.23
奥永 和俊	文学部 (1958)	2023.10.20	岩田 諦雄	短 期 (1959)	2024.04.17	長江 清光	文学部 (1961)	2024.09.27
志武 勲	短 期 (1978)	2023.10.21	土生 晃恵	文学部 (1973)	2024.04.17	伊原 真仁	文学部 (1957)	2024.09.29
鈴木 映子	会 友 (一)	2023.10.21	竹田 脩	短 期 (1962)	2024.04.18	沢 紹明	文学部 (1989)	2024.10.05
富田 慶雄	短 期 (1969)	2023.11.13	杉浦 立美	修 士 (1968)	2024.04.19	石井 博	文学部 (1958)	2024.10.06
朝倉 俊昭	文学部 (1951)	2023.11.16	寺澤 當三	文学部 (1956)	2024.04.25	泉 宣英	文学部 (1955)	2024.10.07
本多 光照	修 士 (1963)	2023.11.26	木村 浄	文学部 (1986)	2024.04.27	橘 淑生	文学部 (1959)	2024.10.08
黒田 博道	修 士 (1974)	2023.12.02	佐々木 元	修 士 (1971)	2024.05.03	阿岸 宏照	修 士 (1969)	2024.10.09
本多 教行	短 期 (1994)	2023.12.05	土岐 昭潤	修 士 (1979)	2024.05.10	伊藤 元	文学部 (1957)	2024.10.10
大石 泰海	文学部 (1984)	2023.12.06	高橋 恵明	文学部 (1959)	2024.05.13	老野生 義常	文学部 (1960)	2024.10.11
高木 正機	文学部 (1964)	2023.12.09	松田 了正	文学部 (1970)	2024.05.14	清原 公瀧	文学部 (1950)	2024.10.18
十時 寿徳	文学部 (1954)	2023.12.12	鷲尾 広宣	文学部 (1967)	2024.05.15	松本 昭自	短 期 (1969)	2024.11.01
藤守 穎章	文学部 (1958)	2024.01.15	寺本 隆雄	文学部 (1957)	2024.05.24	一柳 啓史	文学部 (1970)	2024.11.02
山崎 隆昌	文学部 (1966)	2024.01.19	永田 伸子	短 期 (1976)	2024.05.27	日野 大信	博 士 (1975)	2024.11.04
朝日 正顯	文学部 (1977)	2024.01.23	松浦 國雄	修 士 (1962)	2024.05.27	波房 恵潤	文学部 (1953)	2024.11.05
南木 壽	修 士 (1964)	2024.01.23	友松 教道	文学部 (1970)	2024.06.13	本田 節子	短 期 (1976)	2024.11.08
渡邊 真証	短 期 (1969)	2024.01.24	嶋田 俊明	短 期 (1957)	2024.06.14	礪波 護	会 友 (一)	2024.11.13
藤井 健郎	短 期 (1967)	2024.01.26	衛藤 弘海	文学部 (1965)	2024.06.17	境川 隆一	文学部 (1972)	2024.11.16
海老原 容光	文学部 (1957)	2024.02.01	伊澤 道宣	修 士 (1993)	2024.06.19	大田 巖	短 期 (1953)	2024.11.21
藤彦 祐秀	文学部 (1960)	2024.02.03	曾我 慧明	文学部 (1962)	2024.06.19	河内 昭圓	博 士 (1968)	2024.12.07
河合 清	修 士 (1981)	2024.02.12	夏野 了	文学部 (1980)	2024.07.01	三桐 慈海	博 士 (1963)	2024.12.08
清谷 寛之	短 期 (1954)	2024.02.14	榎山 聖仁	文学部 (1981)	2024.07.02	藤井 宣丸	文学部 (1955)	2025.01.09
田端 哲哉	修 士 (1968)	2024.02.19	千葉 敏	文学部 (1960)	2024.07.05	采翠 徹	文学部 (1963)	2025.01.16
岩崎 昭文	文学部 (1966)	2024.02.23	小山 輝夫	短 期 (1953)	2024.07.09	飯尾 哲也	文学部 (1964)	2025.02.05
十時 舜悟	短 期 (1955)	2024.02.26	野口 洋	文学部 (1978)	2024.07.15	加来 一丸	文学部 (1957)	2025.02.16
原田 和磨	短 期 (1965)	2024.02.26	住田 朋子	文学部 (1985)	2024.07.18	築山 修道	博 士 (1972)	2025.02.19
曾我 春也	文学部 (1955)	2024.02.27	本多 和	文学部 (1969)	2024.07.25	藤浪 龍	文学部 (1962)	2025.03.17
西山 定	大予科 (1944)	2024.03.08	徳原 哲二	短 期 (1968)	2024.07.26			

() 内は最終卒業・修了年度(敬称略) ※年月日はご逝去された日付(逝去日・五十音順)

大谷大学同窓会の発展にご尽力賜りました元支部長・事務局をお務めいただいた方々のご逝去について、謹んでご報告申し上げます。

飯尾 哲也 氏 (2006年～2013年 室蘭支部長)

一柳 啓史 氏 (2012年～2018年 尾張学会支部長)

佐々木 元 氏 (2012年～2015年 郡上支部長)

木村 浄 氏 (2022年～2024年 播磨支部事務局)

ご結婚おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを念じ申し上げます。

♡ 川村 直輝 (2020年 文学部) ・ 仲川 実佑

♡ 八田 隆純 (2019年 文学部) ・ 大橋 恵 (2018年 修士)

♡ 宗 周太郎 (会友) ・ 福田 初音

♡ 吹田 隆徳 (会友) ・ 木村 茜

♡ 大川 ヘナン (会友) ・ 兎本 香苗

♡ 小塚 純道 (2015年 文学部) ・ 北村 比佐絵 (2013年 文学部)

※大谷大学尋源講堂での仏前結婚式をお受けしています。お問い合わせは、大谷大学総務課 (TEL 075-411-8163) まで。

() 内は最終卒業・修了年度(敬称略) ※同窓会本部 2025年3月31日現在 連絡分 順不同

現役教員からの便利

種子を育む

社会学部 コミュニティデザイン学科 教授

なかの か な こ
中野 加奈子



2014年に本学に着任して以来、社会福祉士養成に関わってきました。多くの学生が、卒業後の進路に社会福祉関係の仕事を選択していきます。最近では、研修などで顔を見掛けたり、実習指導者になった卒業生に出会う機会が増えてきました。

私たち教員は彼らが4年間で大きく成長していく姿を見つめてきました。本を読むのが苦手、という学生が卒論を通して「知ることが楽しい」と語ったり、学びを通して自分のユニークなアイデアを形成したり。実習では認知症高齢者や障害者の方々と出会い、人と関わることの喜びや楽しさを語っていたり。入学式の時に見せたどこか不安そうな表情が、多くの経験を通して泣いたり笑ったりしながら大人の表情に変わっていききました。そうした大きな成長は私たち大学教員にとっては喜びでもあり、彼らの成長のゴールに見えます。

けれども、卒業生に会うと、大学での学びを土台にして、新たな学びを得てますます成長していることが伝わってきます。実習する

学生へさりげないサポートをし、適切な助言をしている姿。そして、今の社会で起こっている諸矛盾を考え、目の前にいる障害者、認知症高齢者、そしてその家族や地域住民の声を丁寧に聞き、問題解決と、地域住民のネットワークづくりに奔走しているその姿は、卒業時の表情よりもさらに逞しさと優しさを増しながら輝いて見えます。

こうした、社会福祉士資格を取得し、障害者支援事業所や公的な相談機関でソーシャルワーカーとして活躍する彼らの姿を見ていると、大学生活での「学び」は4年でゴールするものではなく、彼らの中に将来に芽吹く大切な種子をそうっと埋めるようなものなのではないか、と思うようになりました。大谷大学の4年間で彼らは素敵な種子を育み、卒業後に芽吹かせてますます成長を遂げていきます。卒業生の皆さんが一人ひとり輝く未来を生きている姿は私たち教員の励みになっています。

論文の目的

文学部 仏教学科 教授

やまもと かずひこ
山本 和彦



学生の頃は難しい論文ばかり書いていた。高度な専門性、最新の知見が備わった論文。いまから思えば、そんな尖った論文を誰が読んでいたのだろうか。読者のいない論文であった。大学に就職して、学生を指導するようになり、自分の学生が理解できる論文を書くよう心がけるようになった。学生が理解できないような論文に意味はない。読者の顔の見える論文。学生からの反応も確かめることができる。テーマも変わった。論理学から解脱論など人間の本質論へと。インド哲学というテーマが、人間とは何かに変わっていった。

生涯学習講座など一般の人が対象の講義や講演も増えた。過去の聴講生が今年いる。来年も会えるかもしれない。顔が見えるので、資料も具体的なものにできる。目の前にいる人の役に立つ話をしたいと思うようになった。自分を知りたいという欲求は人間に備わった本質的なものだ。自分は何者なのか。名前や職業ではない自分自身を知ることが人生の目的である。誰もがそれを求め

ている。それに何とか答えたい。講義や講演は自分に返ってくる。他者のためのものが自分のものとして返ってくる。講義を重ねる度に自分の生き方を見直すようになった。

世俗的な生き方、たとえば職業選択などの正解は一つではない。すべてが正解である。真理を求める生き方の正解は一つである。他者を通して自分を知る。自分で経験して知識を得る。経験知が自分を教えてくれる。学生の頃は古典テキストを読んで論文を書いていた。いまは自分の経験をテキストのなかで見つけ出して書いている。真理は自分のなかにある。自分で体験してテキストで確認する。ようやく論文の書き方がわかってきた。

経験知を文章にすることが論文である。そのときの年齢でしか書けない論文がある。同じテーマで書いても異なったものになる。年齢とともに深化する。過去に書いたテーマで、もう一度書いてみようと思う。異なった論文になるだろう。

同期会 OB・OG会

2024年3月～2025年2までに行われた
各団体の行事を紹介しています。
開催報告のコメント等、詳細は同窓会ホームページを
ご覧ください。

*ホームページでは写真を拡大してご覧いただけます。
<http://www.mujinto-otani.org/activity/kokuti.html>

開催 報告



東館ゼミ現役生及び
2020～2022入学
修士課程 合同懇親会

2024
3/6



文学部仏教学科
上野ゼミ・戸次ゼミ
2021年度卒業生合同懇親会

2024
3/9



1970年入学
大谷大学
全学連支持委員会同期会

2024
3/12・13



1982年度入学
1-C友田クラス同窓会

2024
3/27



1963年(昭和38年)入学
(文学部・短期大学部)
60周年記念 同期会

2024
4/3



1978年度卒業
広瀬果ゼミ同期会

2024
5/8



2019年度卒業
木越ゼミ同期会

2024
5/11



1974年度入学
短期大学部仏教科同期会

2024
5/23



道交会(柔道部OB・OG会)

2024
5/29



1982年(昭和57年)入学
自灯学寮同期会

2024
6/1・2



2008年卒業
宮崎ゼミ同窓会

2024
6/15・16



大谷大学陸上競技部
創部100周年記念式典

2024
6/22



大谷大学史学科
昭和51年入学
フランス語1-Gクラス同期会

2024
6/29



2018年度卒業
短期大学部仏教科同期会

2024
7/5



育英学寮
卒寮40周年記念 同窓会

2024
7/7・8



2013年入寮
自灯学寮同期会

2024
7/20



2013年入寮
貫練学寮同期会

2024
7/20



2023年3月卒業
西本ゼミ同期会

2024
7/26



2016年度卒業
赤澤ゼミ同期会

2024
7/27



2012年度～2013年度卒業
志藤ゼミ同期会

2024
8/1



大谷大学
バスケットボール部OB・OG会

2024
8/3



1975年卒業
幼児教育科8期同窓会

2024
9/11



1980年入寮
自灯学寮同期会

2024

9/14



1979年入寮
育英学寮同期会

2024

10/1



1983年入寮
貫練学寮第四期同期会

2024

10/3



1982～1995年卒業
大谷大学国文学
石橋義秀ゼミ同期会

2024

10/6



混声合唱団
OB・OG総会

2024

10/20



1967年度卒業
短期大学部仏教科同期会

2024

10/22・23



1974年(昭和49年)入学
尾州学寮同期会

2024

10/24



1983年入寮
自灯学寮還暦同期会

2024

11/6



2024年3月卒業
真宗学科
井上尚実ゼミ同期会

2024

11/8



2016～2020年度卒業
大谷大学写真部
OB・OG会

2024

11/9



落語研究会OB・OG会

2024

11/9



1980年入学
1-Fクラス同期会

2024

11/9



大谷大学剣道部講武会
(OB・OG会)

2024
11/9



大谷大学男声合唱団
OB会 コールリンデン
クラブ総会及び懇親会

2024
11/9



恩師桜部建師を偲ぶ会
(13回忌)

2024
11/13



1968年入学
雲井昭善先生クラス1-D
「雲の糸」同期会

2024
11/21



1968年
育英学寮入寮OB会
in本山御満座

2024
11/27・28



2022年・2023年・2024年
卒業赤澤ゼミ同窓会

2025
1/3



2021年卒業
歴史ミュージアムゼミ
同期会

2025
2/8



1982年入学
1-C友田クラス同窓会

2025
2/15



1975年入寮
自灯学寮9期生
古希の集い

2025
2/26

同期会、OB・OG会の受付について

同期会、OB・OG 会開催にあたり、同窓会本部では以下のサポートを行っています。開催の際はぜひご連絡ください。
(以下のサポートは、対象者すべての方(例:ゼミ全員)への案内が条件となります。)

Support 1 大学施設の利用・見学ができます。

- 学内施設または湖西キャンパスセミナーハウスで開催ができます。
- 学内でのケータリングが可能です。
- ※希望される場合は、日程等を決定する前に、同窓会本部へご相談ください。
学内見学も随時受付けています。

Support 2 連絡用名簿・宛名ラベルの提供ができます。

※申請書受付後、提供までに10日～2週間程かかります。

Support 3 ホームページ「無盡燈」に開催告知を掲載します。

Support 4 開催の助成を行います。

- 通信費の一部として助成費(1万円/2025年6月現在)をお渡ししています。助成は対象者すべての方(例:ゼミ全員)への案内が条件となります。

Support 5 写真を掲載し、同窓会ホームページ「無盡燈」には、開催報告(写真およびコメント)の掲載をします。

- 助成費を受け取った場合は、必ずご提出ください。

お問合せ先

大谷大学同窓会本部
(大谷大学校友センター内)

TEL 075-411-8124
E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

FAX 075-411-8157

開室時間 9:00～17:00(11:30～12:30 土・日・祝除く)

同窓会費の納入について（ご協力依頼）

同窓会は、同窓生の皆さまにご納入いただく「同窓会費（終身会費と年会費）」と「寄付金」を活動資金として事業を行っています。同窓会活動にご理解とご支援を賜り、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 会員区分について 卒業年度により「会員区分」が異なります。ご自身の会員区分をご確認ください。
同窓会報『無盡燈』の宛名ラベルに所属の会員区分が記載されています。

会員区分	ご依頼内容								
一般会員 ①1990年度以前の卒業・修了生のうち、「終身会員」ではない方 同封の振込取扱票（振込手数料無料）を使用し、右記の【A】【B】のいずれかの方法により、会費納入をお願いいたします。	【A】毎年、「年会費 3,000円」を納入する。 【B】「終身会費 30,000円」を納入し、終身会員に変更する。 振込取扱票を使用されない場合は、以下の口座に振込をお願いいたします。 同窓会費・寄付金専用口座 〈ゆうちょ銀行〉 <table><tr><td>振 替 口 座</td><td>01020-9-20542</td></tr><tr><td>（支 店）一〇九</td><td>当座</td></tr><tr><td>口 座 番 号</td><td>20542</td></tr><tr><td>加 入 者 名</td><td>大谷大学同窓会本部</td></tr></table>	振 替 口 座	01020-9-20542	（支 店）一〇九	当座	口 座 番 号	20542	加 入 者 名	大谷大学同窓会本部
振 替 口 座	01020-9-20542								
（支 店）一〇九	当座								
口 座 番 号	20542								
加 入 者 名	大谷大学同窓会本部								
終身会員 ①1990年度以前の卒業・修了生のうち、「終身会費 30,000円」を納入した方 ②1991年度以降の卒業・修了生のうち、卒業・修了年 次 の学費納入時、「終身会費30,000円」を納入した方	同封の振込取扱票（振込手数料無料）、もしくは上記「同窓会費・寄付金専用口座」ご利用いただき、寄付金の納入に、ご協力をお願いいたします								

同窓会員向けサービス

ご住所の変更連絡

同窓会本部では、同窓会員の住所・氏名を管理しています。会報誌、同期会等各種郵送物の宛先となりますので、氏名・住所に変更がある場合は、同窓会本部へご連絡または、以下のメールフォームをご利用ください。

大谷大学ホームページ
会員の住所変更



各種証明書の申込み

証明書等の発行については、電話または窓口で申し込むことができます。発行には手数料が必要となります。詳細は大学ホームページをご確認ください。

大谷大学各種証明書



図書館・博物館のご利用

同窓生は、大谷大学の図書館、博物館（特別展無料）を利用することができます。ただし、図書館の利用には、利用証申請手続きが必要です。詳細については、大学ホームページをご確認ください。

大谷大学図書館



大谷大学博物館



ご結婚のお知らせ

同窓会員がご結婚される際には、同窓会より祝電をお送りします。また、同窓会報『無盡燈』にてご結婚のご報告をさせていただきますので同窓会本部へご連絡ください。

大谷大学内で仏前結婚式

尋源館（登録有形文化財）2階にある尋源講堂で、仏前結婚式を行うことができます。

仏前結婚式の問合せ先
大谷大学総務課
TEL：075-411-8163



ご寄付について

ご寄付に関する問い合わせ先
大谷大学教育振興資金局

TEL:075-411-8124

大谷大学では、教育研究の充実を図るため、募金活動を行っています。ご寄付いただいた資金は、教育・研究の充実を図るため環境整備に充ててまいります。【本学への寄付は、税法上の優遇措置を受けることができます。】

教育振興資金募金

ご寄付の方法については、[大谷大学寄付募金WEBサイト]をご確認ください。クレジットカード決済、払込取扱票による振込などご希望の方法をご利用いただけます。



[2024年4月1日～2025年3月31日寄付者一覧] 寄付者総数：58件／寄付金総額：4,520,000円

個人	赤羽根 聡 (宮城県)	浅井 香奈 (高知県)	市位 欽一 (京都府)	岩城 成人志 (鳥取県)	岩田 理恵 (三重県)
	大原 賢悟 (愛知県)	岡村 隆 (山口県)	几 恵憲 (滋賀県)	狩野 不二磨 (福岡県)	上川 雄士 (兵庫県)
	窪田 純 (岐阜県)	酒井 洋一 (兵庫県)	佐藤 静文 (宮城県)	篠岡 誓法 (京都府)	鈴木 なつ江 (静岡県)
	多賀堂 龍門 (群馬県)	武田 量則 (新潟県)	田中 仁 (京都府)	月輪 融 (石川県)	寺本 隆人 (滋賀県)
	難波 明則 (大阪府)	英 信哉 (愛知県)	比嘉 秀一 (沖縄県)	藤山 竜史 (石川県)	堀 弘幸 (岡山県)
	増田 謙治 (徳島県)	源川 秀教 (新潟県)	三保谷 順 (愛知県)	村島 正洋 (滋賀県)	保木 円 (滋賀県)
	森下 雄二郎 (大阪府)	山田 恵文 (三重県)	山田 雅明 (徳島県)	米澤 典之 (三重県)	
法人	NPO法人尋源舎 理事長	東館 紹見 (京都府)	梶山合資会社 代表社員 梶山 融子 (東京都)		
	長谷川体育施設株式会社	関西支店 執行役員支店長 川村 直樹 (大阪府)	佛行寺 浅野 洋子 (福岡県)		
	有限会社石間企画事務所	代表取締役 石間 裕 (東京都)	宗教法人蓮泉寺 舟橋 尚哉 (愛知県)		

OTANI古本project

本やDVDの買い取り価格が大谷大学への寄付となり、大学の図書購入費用等に充てられます。

2018年6月から2025年3月までに5,372冊(¥147,175円分)の本をお送りいただきました。



どのような仕組み？

古本を寄付



古本の集荷・仕分け・買取
株式会社バリューブックス



大学図書購入費用等へ



手続き方法は？

- ①書籍をダンボールに入れる。
- ②WEBで集荷を依頼する。
- ③査定結果についてご本人に報告。

※金額の参考はおためし査定
をご利用ください。



注)ISBNの無い本、雑誌、百科事典、コンビニコミックはご寄付いただけません。 (「おためし査定」で査定額が出るものはご寄付可能です。)

京都市ふるさと納税を通じたご支援

京都市ふるさと納税では返礼品の受け取りとともに、寄付額の一部を本学への寄付とすることができます。本学学生による地域連携活動の支援として充てられますので、ふるさと納税の際は、「寄付の使い道」として「京都の大学・大学生の活動を応援」、そして「大谷大学」をお選びください。

(京都市宛てのみ対象。京都市内在住者は対象外)



さとふる・ふるさとチョイスなど、
京都市掲載サイトからお手続きください

大谷大学の地域連携
活動について。



京都市ふるさと納税に
ついて。



Club introduction
クラブ紹介

中央執行委員会

「大学生活を一生のものにするために」



大谷大学学生会の執行機関である中央執行委員会では、学生会活動の発展をはかるための諸行事の企画や、運営に関わる事務作業を行っています。日々の活動目標は、学生やクラブ・委員会の活動が充実したものとなり、活発に行えるようサポートをすることです。主な活動は、部室での週1〜2回のミーティングで、内容は時期によって異なりますが、学生大会の運営方針の決定や資料・アンケート作り、部室棟内のごみ回収の実施要綱などについて話し合っています。また、学園祭や新入生歓迎行事などでは、学園祭実行委員会・新入生歓迎実行委員会の特別委員会の皆さんと共に、イベントの成功を目指し活動しています。そのため、学年・学部関係なく、様々な学生と良い交友関係を築くことができ、充実した学生生活を過ごすことができます。

2025年度は、学生大会を通じて、より多くの学生の意見を聞き、継続的に続けていくべき活動と、改善が必要な事項を明らかにしていこうと考えております。ご意見があれば、ぜひ中央執行委員会のX、InstagramのDMや、Gmail宛にご連絡いただければと思います。

最後になりましたが、ご卒業されたOB・OGの皆様。今後とも、中央執行委員会と卒業された先輩方がより良い形で繋がっていくように努めてまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

中央執行委員会 西森 愛菜



otani.cec.gakuseikai@gmail.com

お近くの高校生にご紹介ください!!

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス 2025

7.21(月・祝) 7.26(土)

8.2(土) 8.3(日)

8.24(日) 9.21(日)

2026

12.14(日) 3.22(日)

祝日オープンキャンパス

7.21(月・祝)は授業実施日
大谷大学の授業風景が見られる特別な一日!

大学紹介

個別相談

学び紹介

キャンパスツアー

注目プログラム!

参加型ワークショップ

参加型のプログラムで学科の学びがさらに深まる!

充実の入試対策!

●小論文型入試セミナー

●公募制推薦入試(小論文型)実践講座

●入試対策講座(模擬試験と解説)も同日開催!

9.21(日)・9.28(日)公募制推薦入試対策 駿台予備学校講師および本学教員が解説を行います。 ※9/28(日)は滋賀県草津市にて開催

申し込み

事前にお申し込みいただくと 申し込みは 当日の受付がスムーズです こちらから

保護者の方のみのご参加も 同伴者の申し込みは不要です



※オープンキャンパス各日程の実施時間・プログラムは大学HPを参照。



ラジオで大谷大学の情報発信中!

本学修了生の谷口キヨコさんがDJを務めるFM大阪の人気番組「LOVE FLAP」で、大谷大学のコーナー「大谷大学KYOTO FLAP」を放送中です。

スマホアプリで聴取可能!



radiko(ラジオ)

FM大阪の放送エリアの方は生放送の聴取が可能です。



AuDee(オーディー)

放送翌日の火曜日に配信。全国どこからでも1年間聴取可能です。

表紙絵

「放生」(部分)

170×180cm 2017年作



今回150号をもって「無盡燈」の表紙絵を終わります。2,3年のつもりでお引き受けしましたが、今日まで28年間も大谷大学同窓会の顔として続けられることが出来たのは無盡燈ギャラリーや、「表紙は必ず取り置いています」というお言葉など、同窓生の皆様のお励ましがあったことによるとしみじみと有難く感じております。

私は画家、インド美術研究者、仏教者と三つの顔を持って制作発表や原稿執筆、また時には仏教のお話をさせていただいてきましたが、どれもがバラバラではなく、全てが繋がって私が生かされてきました。

大谷大学では8年前まで非常勤講師として、22年間にわたり「インド仏教美術史」の講義をしてまいりましたので、その間の大学の移り変わりを感ずることが出来ました。また大学の博物館では「仏教美術の流伝」として仏像の流れの展示と、私の絵画作品展をさせていただいたこともありました。

仏教の基本は「無常」と「四苦八苦」を常に知り、必ず人は死に至る存在であることを自覚することであると思います。死について考えない宗教はありません。釈尊も死については数多く語っておられます。「熟した果物は必ず落ちる」「陶器はいつかは壊れる」など死についてのたとえ話は沢山あります。釈尊在世中に、人は死んだ

らどうなるのでしょうかと問われたことがあり、「私は死んだことがないからわからない。輪廻転生はあるとも、無いともわからない」と申されました。インドの人々は現在まで天上界、人間界、餓鬼、畜生、地獄の五道輪廻を信じています。六道輪廻といって修羅が入ってくるのは中国からで、インドでは修羅、争いの世界は五道のどこにでもあることなので、五道輪廻とされています。私たちは生死の間を迷って生きていますが、仏教は死や生を超えることにあります。生死は大事であります、生から死に至る現実を仏教者として通過しなくてはなりません。今号の絵は「放生」です。一般に鳥や魚などを野生に放つことで功德を積むと思われていますが、仏教では生死からとき放すことです。

今日、世界は国のリーダーの独裁によって大きく変貌してきています。地球や人類の未来を考えずに自己愛、自国だけがよければよいという風潮になってきているように思います。本当に現在こそ仏教の教えが必要と感じます。戦争は人殺しであり、バーチャルのゲームではありません。釈尊は「私にひきかえて人を殺してはならない、また殺させてはならない」と説かれています、大変重い言葉です。

社会の流れに応じて大学も変化していくことは当然ですが、大谷大学はいつまでも仏教精神に基づいて人間を学ぶ大学であって欲しいと願っています。大谷大学の卒業生であることを誇りに、今しばらく、怠らず努力を続けたいと思っています。

畠中光享（1970年文学部卒業）

広告募集

同窓会報『無盡燈』広告掲載について

およそ39,000人(2025年4月現在)の同窓生に向けて、お店の紹介などの広告を掲載しませんか。掲載枠の種類は以下のとおりです。

2枠 50,000円(税込)
(タテ60mm×ヨコ180mm)

1枠 30,000円(税込)
(タテ60mm×ヨコ90mm)

※掲載ページの指定はできません。

※要申し込み。詳細は9月1日更新の同窓会ホームページでご確認ください(職域同窓会も開催予定)。

日時
2025
11/8(土)
午後



E-mail : kouyu@sec.otani.ac.jp

親鸞^{しんせき}聖人の真蹟の『坂東本・教行信証』から集字したものです。『維摩經』に「無盡燈^{ゆいまじょう}というのは、譬^{たと}えば一つの燈^{とう}をもって百千の燈をともしようなものである。冥^{くら}やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。



ホームページやSNSでは、同窓会の活動や同窓生の活躍、母校「大谷大学」の現況などの情報をタイムリーに発信しています！